| 科目名【英】 | 心理学 Psychology | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 火曜日 | 時　限 | 1.2 |

| 担当教員 | 髙橋　千津子 | 実務者経験 | |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 人間の行動を理解するために、パーソナリティーや記憶、知覚、態度変容や説得、集団行動といった身近で基礎的な心理学を学ぶ。 |
|---|---|
| 到達目標 | 授業で得られた心理学の知見を柔整師として、患者や周りの人々の人間の理解や対人関係に役立てたり応用することができる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 授業の終わりにわからない事は質問して下さい。復習は各自で行って下さい。 |
|---|---|
| 使用教材 | 図説現代心理学入門　(培風館)、　配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 筆記試験８０％　/　平常点２０％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 心理学とは何か | 心理学とは何か、現代心理学の分野でどういう事が扱われているのかダイジェスト式に学ぶ。 |
| 2 | | パーソナリティの理論 | パーソナリティとは何か、どういう見方(理論）があるか、類型論、特性論について学び、MPI短縮版で実際に自分の性格を知る。 |
| 3 | | パーソナリティの理論 | パーソナリテイの別の見方―精神分析理論、認知理論について学ぶ。 |
| 4 | | パーソナリティの発達 | パーソナリティの発達要因の遺伝的要因、生物学的要因、環境的要因について学ぶ。 |
| 5 | | パーソナリティ形成のメカニズム | 幼児期体験の重要性(刻印づけ、初期経験等）学習理論、社会的学習理論、認知的発達理論等のパーソナリティ形成のメカニズムについて学ぶ。 |
| 6 | | パーソナリティーの診断 | 行動観察法、面接法、テスト法（質問紙法、作業検査法、投影法）等パーソナリテイの診断方法について学ぶ。 |
| 7 | | 記憶のしくみ | 記憶のしくみについて学び、実際に記憶を促進する方法を学ぶ。 |
| 8 | | センシティビティトレーニング | 人の気持ちに敏感になる感受性訓練や自律訓練法を実際に行いながら学ぶ。 |
| 9 | | 社会的知覚 | 社会的知覚の傾向性や認知、閾下知覚等人間の知覚の特徴を学ぶ |
| 10 | | 対人魅力 | なぜ人は特定の人を好きになるのか、対人魅力の規定因について学ぶ。 |
| 11 | | 社会的態度と態度変容 | 態度とは何か、なぜ態度は変わるのか態度変容のメカニズムについて学ぶ。 |
| 12 | | 説得的コミュニケーション | いかにして態度を変えさせるか一説得について学び、説得力を高めるコミュニケーションの要因を学ぶことで実際場面に応用できるようにする。 |
| 13 | | 集団と集団決定 | 集団とは何か、集団決定はどのように集団が個人に影響を及ぼすのか、実際にグループワークをしながら学ぶ。 |
| 14 | | リーダーシップと同調性 | リーダーシップとは何か、その機能とPM理論、集団圧力と同調性等について学ぶ。 |
| 15 | | 試験解説 | 後期試験解説、エゴグラムで自己を知る。 |

| 科目名【英】 | 生理学３ Physiology 3 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 1.2 |

| 担当教員 | 田中　淳 | 実務者経験 | 2008～2015年は新潟経営大学、2016～2018年は環太平洋大学、2019年から現在までは大阪国際大学で、スポーツ生理学やトレーニング科学に関する講義および実技を担当 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 成長期および高齢期における身体や運動能力の変化について、生理学的な特徴を理解し、運動能力の発達や障害予防につなげるための方法について学修する。また競技者におけるトレーニングによる生理学的な適応を理解し、運動能力向上のための方法について学修する。 |
| 到達目標 | 小児期から青年期の発育発達特性およびトレーニングによる変化を理解し説明することができる。<br>高齢者における身体の生理学的特徴や変化、運動による障害予防を理解し説明することができる。<br>競技者における身体の生理学的特徴を理解し説明することができる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 準備学習として、教科書の該当するページを読み、内容を確認しておくこと。<br>時間外学習としては、授業で実施した内容を復習し、理解を深めておくこと。 |
| 使用教材 | 教科書「生理学改訂第4版」（南江堂）および「競技者の外傷予防」（医歯薬出版株式会社）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 授業計画については、授業の進行等により変更する場合がある。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末試験60%、毎時の小テスト（レポート）20%、受講態度20% |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 運動生理学の概要（１） | 運動と呼吸・循環<br>呼吸・循環器系の運動による応答やトレーニングによる適応について説明できる |
| 2 | | 運動生理学の概要（２） | 運動とホルモン<br>ホルモンの運動による応答や骨格筋、骨の成長への影響について説明できる |
| 3 | | 運動生理学の概要（３） | 競技者の運動生理学的特徴①<br>競技者の有酸素性作業能力について説明できる |
| 4 | | 運動生理学の概要（４） | 競技者の運動生理学的特徴②<br>競技特性と間欠的作業能力について説明できる |
| 5 | | 運動生理学の概要（５） | 競技者の運動生理学的特徴③<br>競技者の形態および身体組成について説明できる |
| 6 | | 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化（１） | 成長に伴うからだや運動能力の発達①<br>小児期から青年期の発育曲線および発育の特徴について説明できる |
| 7 | | 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化（２） | 成長に伴うからだや運動能力の発達②<br>発育期の運動不足・オーバートレーニング、運動の発達と習熟について説明できる |
| 8 | | 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化（３） | 競技者の生理学的特徴・変化①<br>トレーニングによる筋・心肺機能の適応変化について説明できる |
| 9 | | 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化（４） | 競技者の生理学的特徴・変化②<br>トレーニングによる神経機構の変化について説明できる |
| 10 | | 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化（５） | 競技者の生理学的特徴・変化③<br>トレーニングによる姿勢調整能力の変化について説明できる |
| 11 | | 高齢者の生理学的特徴・変化（１） | 細胞・組織の加齢現象、高齢者の生理的特徴①（加齢による臓器機能の変化）<br>細胞、生体膜、細胞内小器官、体内水分量の加齢変化および加齢による臓器機能の変化について説明できる |
| 12 | | 高齢者の生理学的特徴・変化（２） | 高齢者の生理的特徴②（高齢者に多い疾患・障害）<br>フレイルや認知症、骨粗鬆症など高齢者に多い疾患や障害について説明できる |
| 13 | | 高齢者の生理学的特徴・変化（３） | 運動と加齢①<br>歩行機能、平衡機能および反応時間の加齢変化について説明することができる |
| 14 | | 高齢者の生理学的特徴・変化（４） | 運動と加齢②<br>加齢に伴う各種運動能力（筋力、パワー、持久力、柔軟性など）の低下とその予防について説明することができる |
| 15 | | まとめ | 全講義のまとめと期末試験のフィードバック<br>運動生理学の概要および発育発達や加齢における生理学的特徴と変化の理解を深める |

| 科目名【英】 | 解剖生理学１<br>Anatomy and Physiology 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 金曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 永瀬　佳孝 | 実務者経験 | 1989年4月～1991年3月小曽根病院歯科、1991年4月～1993年6月中川歯科医院にて歯科医師としての実務経験あり。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 神経の解剖学・生理学について学習する。 |
| 到達目標 | ①授業内容の各項目の知識を記憶し、図と文章を用いて説明することができる。<br>②授業の各項目について、臨床との関連を説明することができる。<br>③国家試験の問題を解く考える力を身につける。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 授業の最後に次回の講義範囲を提示するので、1年次の教科書を読んでくること。<br>授業の最後に記憶すべき事項を提示するので、覚えること。 |
| 使用教材 | 1・2年生で使用する解剖学、生理学、一般臨床の教科書 |
| 留意点<br>備　考 | すべて板書するので、それをノートに手書きで書き写し、授業終了時に授業ノートの提出により出席とする。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 筆記試験（60）%、授業ノート提出（40）%（欠席1回に付き13%減点）、合計100点。60点以上で合格。 |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | ニューロンの電気現象、反射 | 反射と反射弓と神経学的検査との関連、運動調節の基礎を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 2 | | 反射の調節－脊髄、脳幹 | 反射の調節と運動器疾患の関連、臨床への応用を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 3 | | 小脳の構造と運動調節 | 小脳の構造が運動調節にどう関連するか、疾患との関連はどうかを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 4 | | 大脳基底核の構造と運動調節 | 大脳基底核の構造が運動調節にどう関連するか、疾患との関連はどうかを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 5 | | 大脳皮質の構造と運動調節 | 小脳との構造の違いが機能にどう変化するかを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 6 | | 感覚の一般と体性感覚 | 意識にのぼらない体性感覚が、実は重要であることを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 7 | | 視覚 | 網膜がどのように情報を分けるか、それがどのように処理さえるかを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 8 | | 眼球運動 | 外眼筋とそ運動の調節の仕組み、臨床との関連を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 9 | | 平衡感覚 | 前庭感覚、視覚、体性感覚による姿勢調節を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 10 | | 聴覚 | 耳の構造、伝導路から、聴覚の特徴を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 11 | | 味覚と嗅覚 | 情動や記憶との関連を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 12 | | 痛覚 | 他の感覚との違いを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 13 | | 学習と記憶 | 運動に関連することを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 14 | | 睡眠 | 感覚との関連を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 15 | | 自律神経系 | 内分泌系とともに内臓調節とともに運動調節にも関連することを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |

| 科目名【英】 | 運動学 Kinesiology | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 林 真太郎 | 実務者経験 | 2010年～2019年 理学療法士として病院勤務を経て訪問リハも従事<br>2019年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 運動に関する人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。<br>特に重力の影響を受けた状態での運動について、その原理・理論も含めて学習する。 |
|---|---|
| 到達目標 | 空間の中での身体の運動を理解できる。<br>身体の運動に関与している骨、関節、靭帯、筋について説明できる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。 |
|---|---|
| 使用教材 | 教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 期末試験 100% |
|---|---|

| 授業計画 【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 運動学１ | 運動学の目的／運動の表し方／身体運動と力学<br>ヒトの運動を構成する原理、法則、概念につい解し、それを説明できる。 |
| 2 | | 運動学２ | 運動感覚と反射／四肢と体幹の運動１【上肢帯・肩関節１】<br>上肢帯・肩関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。 |
| 3 | | 運動学３ | 運動感覚と反射／四肢と体幹の運動１【上肢帯・肩関節２】<br>上肢帯・肩関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。 |
| 4 | | 運動学４ | 四肢と体幹の運動２【肘関節・前腕１】<br>肘関節の構造・機能について理解できる。 |
| 5 | | 運動学５ | 四肢と体幹の運動２【肘関節・前腕２】<br>肘関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。 |
| 6 | | 運動学６ | 四肢と体幹の運動３【手関節・手１】<br>手関節・手の構造・機能について理解できる。 |
| 7 | | 運動学７ | 四肢と体幹の運動３【手関節・手２】<br>手関節・手の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。 |
| 8 | | 運動学８ | 四肢と体幹の運動４【股関節１】<br>股関節の構造・機能について理解できる。 |
| 9 | | 運動学９ | 四肢と体幹の運動４【股関節２】<br>股関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。 |
| 10 | | 運動学１０ | 四肢と体幹の運動５【膝関節１】<br>膝関節の構造・機能について理解できる。 |
| 11 | | 運動学１１ | 四肢と体幹の運動５【膝関節２】<br>膝関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。 |
| 12 | | 運動学１２ | 四肢と体幹の運動６【足関節・足部１】<br>足関節・足部の構造・機能について理解できる。 |
| 13 | | 運動学１３ | 四肢と体幹の運動６【足関節・足部２】<br>足関節・足部の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。 |
| 14 | | 運動学１４ | 四肢と体幹の運動７【四肢の運動のまとめ１】<br>各関節構造の理解に基づき、上・下肢の運動を各関節の運動に分解して理解できる。 |
| 15 | | 運動学１５ | 四肢と体幹の運動７【四肢の運動のまとめ２】<br>各関節構造の理解に基づき、上・下肢の運動を各関節の運動に分解して説明できる。 |

| 科目名【英】 | リハビリテーション医学<br>Rehabilitation Medicine | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 山本　貴啓 | 実務者経験 | 1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。<br>2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | リハビリテーション医学の基礎的な内容を理解する。生活機能を評価し、改善するための着眼を養う。 |
|---|---|
| 到達目標 | リハビリテーションの理念を理解し説明することが出来る。医学的リハビリテーションにおける多職種協働によるアプローチを実践するための,専門用語を理解し説明することが出来るようになる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。 |
|---|---|
| 使用教材 | 教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料 |
| 留意点<br>備　考 | 疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。 |

| 成績評価 | 筆記試験８０％　/　平常点２０％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | リハビリテーションの概念・歴史 | リハビリテーションの概念・歴史<br>リハビリテーションの理念を説明することができるようになる |
| 2 | | 障害の捉え方・ICIDH | 国際障害分類<br>ICIDHでの障害分類を説明できる。簡単な障害をICIDHの障害構造に分類できるようになる |
| 3 | | 障害と生活機能ICF | 国際生活機能分類<br>ICFに基づく生活機能の説明ができる。背景因子への介入方法について説明できるようになる |
| 4 | | リハビリテーションでの多職種連携 | リハビリテーションに関わる職種・多職種連携<br>リハビリテーションに関わる職種を説明することができるようになる |
| 5 | | 評価学１ | リハビリテーションにおける評価<br>リハビリテーションで用いる評価法を理解できるようになる |
| 6 | | 障害学と治療学１ | 関節機能障害とその治療<br>可動域制限の原因の鑑別診断とその治療手技について理解できるようになる |
| 7 | | 障害学と治療学２ | 筋力低下・神経障害とその治療<br>筋力・神経機能の評価から治療までの過程を理解できるようになる |
| 8 | | 障害学と治療学３ | 各種治療技術の紹介（身体作業療法・精神科作業療法）<br>作業療法について説明できるようになる |
| 9 | | 障害学と治療学４ | 各種治療技術の紹介（言語障害・高次脳機能障害ととその治療）<br>言語障害、高次脳機能障害について理解し説明できるようになる |
| 10 | | 高齢者１ | 廃用症候群<br>廃用症候群の各症候を理解し、その対処法を説明できるようになる |
| 11 | | 高齢者２ | 医療制度・介護保険制度<br>高齢者に関連する社会制度で実践されるリハビリテーションについて理解できるようになる |
| 12 | | 脳血管障害１ | 脳血管障害<br>脳血管障害の急性期のリハビリテーションを理解できるようになる |
| 13 | | 脳血管障害２ | 脳血管障害<br>脳血管障害の回復期・維持期のリハビリテーションを理解できるようになる |
| 14 | | パーキンソン病 | パーキンソン病・神経疾患<br>パーキンソン病等のリハビリテーションについて理解できるようになる |
| 15 | | 試験解説・まとめ | 前期試験を解説<br>前期で学習した範囲が説明できるようになる |

| 科目名【英】 | 整形外科学<br>Orthopaedics | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 高橋　秀郎 | 実務者経験 | 医療法人　淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定　手術助手　手術後のリハビリテーション担当　1993年9月～2013年4月 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 柔道整復師の業務に必要な整形外科疾患の知識を得る。<br>柔道整復業務に必要な情報のやり取りを整形外科医と行う為の基礎知識を学ぶ |
| 到達目標 | 国家試験整形外科分野の正答率80%を目指す<br>患者の状態から正しい病態把握ができるようになる<br>外傷だけでなく整形外科疾患全般の知識を身に着ける |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学の骨、筋の知識の復習 |
| 使用教材 | 柔道整復学校協会　整形外科学 |
| 留意点<br>備　考 | 教科書を熟読すること。<br>板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 筆記試験８０％　/　平常点２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 整形外科学１ | オリエンテーション　整形外科とは<br>運動器の基礎知識　骨の基礎知識を説明できるようになる |
| 2 | | 整形外科学２ | 運動器の基礎知識<br>筋・靱帯・腱の知識を修得し、構造と役割を説明できるようになる |
| 3 | | 整形外科学３ | 運動器の科学、生体材料、再生医学を理解し患者説明の手段とすることが出来るようになる<br>整形外科的診察法の導入 |
| 4 | | 整形外科学４ | 整形外科的診察法<br>上肢長下肢長計測と姿勢・体幹四肢のバランス、跛行の観察ができるようになる |
| 5 | | 整形外科学５ | 整形外科的診察法<br>反射　拘縮　強直　跛行　トレンデレンブルグ徴候の概念が説明できるようになる |
| 6 | | 整形外科学６ | 整形外科的診察法<br>X-P CT MRI PETの適応と禁忌症について説明できるようになる |
| 7 | | 整形外科学７ | 整形外科的診察法<br>骨密度測定～超音波検査を運用する知識を修得し運用の基礎知識とすることが出来るようになる |
| 8 | | 整形外科学８ | 整形外科的治療法<br>観血療法、薬物療法～関節形成術について患者説明ができるようになる |

| 科目名【英】 | 外科学概論 Introduction of Surgery | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 1.2 |

| 担当教員 | 坂口　道倫 | 実務者経験 | 外科学の臨床および教育を30年間おこなっている |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 医療の基本を学ぶ。外科学として基本の外傷学を学ぶ。外科学各論として、各臓器の外科疾患における病態と治療法について学ぶ。 |
| 到達目標 | 医療における生理学と解剖学に基づいた外科臨床の考え方を身につける。さらに、基礎的な医療用語を筆記にて説明できるようにする。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 毎回の授業を復習し、理解し暗記する。指定された個別医療単語を簡単に説明できるようにする。 |
| 使用教材 | 教科書「外科学概論」（南江堂） |
| 留意点<br>備　考 | 整理された知的で美しいノートを創り上げる。授業における集中力を高める。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 前期に３回の確認テストを行う。期末試験（90%）＋確認テスト（計10%）で総合評価する。 |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 頭部外傷 | 頭部の解剖と外傷について病態を理解する |
| 2 | | 胸部外傷 | 胸部の解剖と外傷について病態を理解する |
| 3 | | 腹部外傷 | 腹部の解剖と外傷について病態を理解する |
| 4 | | 確認テスト | 外傷について筆記できるようにする |
| 5 | | 総論１ | 損傷と創傷、熱傷と外科感染症について理解し説明できるようにする |
| 6 | | 総論２ | 腫瘍とショック、輸血・輸液、消毒と滅菌について理解する |
| 7 | | 確認テスト | 総論１・２について筆記できるようにする |
| 8 | | 総論３ | 手術と麻酔、移植と免疫、出血と止血、心肺蘇生法について理解する |
| 9 | | 各論１ | 脳神経外科疾患について理解し説明できるようにする |
| 10 | | 確認テスト | 総論３・各論１について筆記できるようにする |
| 11 | | 各論２ | 甲状腺・頸部疾患、胸壁・呼吸器疾患について理解する |
| 12 | | 各論３ | 心臓・脈管疾患、乳腺疾患について理解し説明できるようにする |
| 13 | | 各論４ | 腹部外科各論を説明できる。急性腹症を表示できる。 |
| 14 | | 総まとめ | 各論について系統的・総合的に確認する。個別医療関連単語について、知識を検証し確認する。 |
| 15 | | 試験解説と弱点補強 | 理解していない項目を学習する。各論のうち特に外傷外科について説明できるようになる。 |

| 科目名【英】 | 臨床柔整学応用各論１<br>Judo Therapy Practical Training 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 正木　大吾 | 実務者経験 | 平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 上腕骨骨折、前腕骨遠位端部骨折の各論、定型的転位、応用固定学、臨床を学ぶ。 |
|---|---|
| 到達目標 | 上腕骨骨折、前腕骨遠位端部骨折の国家試験問題が解けるようになる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学（骨・筋）参照 |
|---|---|
| 使用教材 | 柔道整復理論　改訂第７版 |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 筆記試験８０％　／　平常点２０％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 柔道整復師の臨床と介護予防 | 柔道整復師の臨床、医接連携、介護予防通所介護の機能訓練士の業務が理解できるようになる。 |
| 2 | | 上腕骨近位端部骨折 | 上腕骨骨頭部骨折の発生機序、症状、固定法、後療法、予後、肩関節の構造と機能などが説明できる。 |
| 3 | | 上腕骨近位端部骨折 | 上腕骨解剖頚骨折の発生機序、症状、固定法、後療法、予後などが説明できる。 |
| 4 | | 上腕骨近位端部骨折 | 上腕骨外科頚骨折の発生機序、症状、鑑別診断などが説明できる。 |
| 5 | | 上腕骨近位端部骨折 | 上腕骨外科頚骨折の固定法、骨癒合、後療法、予後などが説明できる。 |
| 6 | | 上腕骨近位端部骨折 | 上腕骨大結節、小結節単独骨折、近位骨端線離開の発生機序、整復、固定法、合併症が理解できるようになる。 |
| 7 | | 上腕骨骨幹部骨折 | 上腕骨骨幹部骨折の概説、発生機序、症状、合併症、骨片転位理解ができるようになる。 |
| 8 | | 上腕骨骨幹部骨折 | 上腕骨骨幹部骨折の整復法、固定法、後遺症、骨癒合、予後が理解できるようになる。 |
| 9 | | 上腕骨遠位端部骨折 | 上腕骨顆上骨折の特徴、発生機序、分類、骨折線、骨片転位が理解できるようになる。 |
| 10 | | 上腕骨遠位端部骨折 | 上腕骨顆上骨折の症状、受診時の注意事項、Ｘ線による評価が理解できるようになる。 |
| 11 | | 上腕骨遠位端部骨折 | 上腕骨顆上骨折の整復、固定、後療法、Fat pad sign、肘関節後方脱臼との鑑別が理解できるようになる。 |
| 12 | | 上腕骨遠位端部骨折 | 上腕骨顆上骨折の後遺症、フォルクマン拘縮、骨化性筋炎が理解できるようになる。 |
| 13 | | 上腕骨遠位端部骨折 | 上腕骨外顆骨折の特徴、発生機序、骨折線と骨片転位、症状、整復法、固定法、後遺症が理解できるようになる。 |
| 14 | | 上腕骨遠位端部骨折 | 上腕骨内側上顆骨折の特徴、発生機序、骨片転位、症状、整復法、固定法、後遺症が理解できるようになる。 |
| 15 | | 試験解答 | 前期筆記試験解答と解説 |

| 科目名【英】 | 臨床柔整学　応用各論２<br>Clinical Judo Therapy Advanced 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 火曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 上田　益嗣 | 実務者経験 | 1995年7月～2024年3月　接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 柔道整復術に必要な下肢の外傷や障害を学ぶ。また、臨床推論を構築するための統合的知識を学ぶ。<br>柔道整復師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。 |
| 到達目標 | 柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、<br>かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科学との関連を復習する。 |
| 使用教材 | 教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として解剖学・運動学の教科書を持参して受講することが望ましい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 原則、単元毎に小テストを実施。期末試験77%・小テスト3%・平常点20%で評価する。 |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーション<br>下腿骨近位端部骨折１ | 評価基準・講義に関する略号・小テスト。前回の復習。下腿骨近位端部【下腿骨近位端部の解剖・アライメント・　分類】下腿骨近位端部の構造・骨折分類の説明ができる |
| 2 | | 下腿骨近位端部骨折２ | 小テスト。前回の復習。下腿近位端骨折【顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL付着部裂離骨折・脛骨粗面骨折】顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL付着部裂離骨折・脛骨粗面骨折について説明ができる |
| 3 | | 下腿骨近位端部骨折３ | 小テスト。前回の復習。下腿近位端骨折【腓骨頭単独骨折・Segond骨折】・下腿骨幹部骨折。　腓骨頭単独骨折・Segond骨折・下腿骨骨幹部骨折の発生機序について説明ができる |
| 4 | | 下腿骨骨幹部骨折１ | 小テスト。前回の復習。脛骨骨幹部【脛骨単独＆脛腓両骨骨折の転位・症状・治療法・後遺症】脛骨単独＆脛腓両骨骨折について説明ができる |
| 5 | | 下腿骨骨幹部骨折２ | 小テスト。前回の復習。腓骨骨幹部骨折＆下腿骨顆上骨折【分類・発生機序・転位・症状・　治療法など】。腓骨骨幹部骨折＆下腿骨顆上骨折について説明できる。 |
| 6 | | 下腿骨骨幹部骨折３ | 小テスト。前回の復習。下腿骨疲労骨折【分類・発生機序・転位・症状・治療法など】。　下腿骨疲労骨折について説明できる。 |
| 7 | | 下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折１ | 小テスト。前回の復習。足関節部の解剖、バイオメカニクス・下腿骨果部【冠名骨折、部位別分類など】。足関節部の解剖や下腿果部骨折の分類を説明することが出来る。 |
| 8 | | 下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折２ | 小テスト。前回の復習。下腿骨遠位端部骨折【ラウゲ＝ハンセン分類の転位・症状など】。　下腿遠位端部および足関節の脱臼骨折のラウゲ＝ハンセン分類による説明ができる。 |
| 9 | | 下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折３ | 小テスト。前回の復習。下腿骨遠位端部骨折【受傷外力による分類の症状・治療法など】。　下腿遠位端部および足関節の脱臼骨折の受傷外力による分類での説明ができる。 |
| 10 | | 足・足趾骨骨折１ | 前回の復習・小テスト・距骨骨折【距骨の解剖・各骨折の分類、発生機転、ホーキンス分類、　症状、治療法】。距骨骨折について説明することができる。 |
| 11 | | 足・足趾骨骨折２ | 前回の復習・小テスト・踵骨骨折【踵骨の解剖、発生機転、分類、症状、ベーラー角、治療法、留意点、予後】。踵骨骨折について説明することができる。 |
| 12 | | 足・足趾骨骨折３ | 前回の復習・小テスト。足根骨骨折【舟状骨骨折＆立方骨骨折＆楔状骨骨折の分類・発生機序・症状・治療法】舟状骨骨折・立方骨骨折・楔状骨骨折について説明ができる。 |
| 13 | | 足・足趾骨骨折４ | 前回の復習・小テスト・中足骨骨折治療法、予後、足趾、趾骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法などを説明することができる。 |
| 14 | | 股関節脱臼１ | 股関節部の【解剖･下肢のアライメント･バイオメカニクス】 股関節脱臼【後方脱臼の発生機転･症状】に関して説明ができる |
| 15 | | 試験解説 | 前期試験解説 |

| 科目名【英】 | 臨床柔整学　応用各論３<br>Clinical Judo Therapy Advanced 3 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 月曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 林　宏明 | 実務者経験 | 2004年4月～2009年3月　鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 上肢の骨折および軟部組織損傷を学び、柔道整復師の役割について考える。 |
|---|---|
| 到達目標 | １．疾患概念を説明できる。<br>２．各損傷におけるポイントを説明できる。<br>３．前腕部・手関節部の解剖と機能について説明できる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖に対して不安であれば予習をしておくこと。 |
|---|---|
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編 改定第７版（南江堂）/　配布資料 |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。 |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 前腕近位部骨折① | 橈骨近位端部骨折<br>本骨折の骨片転位を説明できる。 |
| 2 | | 前腕近位部骨折② | 肘頭骨折<br>本骨折の骨片転位を説明できる。 |
| 3 | | 前腕骨骨幹部骨折① | 橈骨・尺骨骨幹部単独骨折<br>各骨折の骨片転位を説明できる。 |
| 4 | | 前腕骨骨幹部骨折② | 前腕骨幹部両骨骨折<br>本骨折の骨片転位、難治理由を説明できる。 |
| 5 | | 前腕部脱臼骨折① | ガレアジ骨折<br>ガレアジ骨折の注意点を説明できる。 |
| 6 | | 前腕部脱臼骨折② | モンテギア骨折<br>モンテギア骨折の注意点を説明できる。 |
| 7 | | 上腕部軟部組織損傷 | 橈骨・尺骨神経損傷<br>各神経損傷について説明できる。 |
| 8 | | 肘部軟部組織損傷 | 野球肘、テニス肘<br>各障害について説明できる。 |
| 9 | | 前腕部軟部組織損傷 | 前腕コンパートメント症候群<br>本症候群の病態を説明できる。 |
| 10 | | 末梢神経障害① | 正中神経障害【解剖・分類・概要】<br>正中神経障害を分類することができる。 |
| 11 | | 末梢神経障害② | 橈骨神経障害【解剖・分類・概要】<br>橈骨神経障害を分類することができる。 |
| 12 | | 末梢神経障害③ | 尺骨神経障害【解剖・分類・概要】<br>尺骨神経障害を分類することができる。 |
| 13 | | 手関節軟部組織損傷① | TFCC損傷【手関節部の機能解剖・症状・徒手検査・治療】<br>TFCC損傷の概念と症状を説明できる。 |
| 14 | | 手関節軟部組織損傷② | 狭窄性腱鞘炎、他疾患【ド・ケルバン病、マーデルング変形、キーンベック病】<br>それぞれの病態を説明できる。 |
| 15 | | 手指軟部組織損傷 | ロッキングフィンガー、ばね指、デュプイトラン拘縮、ヘバーデン結節、ボタン穴変形、スワンネック変形 |

| 科目名【英】 | 柔整コンディショニング実習１<br>Judo Therapy Conditioning Skill Practice | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 1.2 |

| 担当教員 | 岩本　暁美　/　本田　珠美 | 実務者経験 | 2007年5月～2010年6月　接骨院に所属し施術をおこなう。 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 柔道整復師において必要となる基礎包帯（下肢包帯、冠名包帯、肋骨骨折の固定法など）を学ぶ。 |
|---|---|
| 到達目標 | 実技試験までにすべての包帯法の走行を覚え、手早く綺麗に巻けるようになる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 動画視聴を行い、走行の復習をしておく。 |
|---|---|
| 使用教材 | 4.5.6裂包帯、3.8ホワイトテープ、三角巾、さらし、厚紙副子（学校で準備）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 包帯用ファイルを持参し、プリントを挟んでいく。 |

| 成績評価 | 実技試験90%、筆記試験10% |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 足部の包帯１ | 【足関節　上行麦穂帯】<br>上行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。 |
| 2 | | 足部の包帯２ | 【足関節　下行麦穂帯】<br>下行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。 |
| 3 | | 足部の包帯３ | 【鐙帯】<br>鐙帯の走行を覚え、巻くことができる。 |
| 4 | | 足部の包帯４ | 【踵離開亀甲帯　＋　三節帯】<br>離開亀甲帯の圧のかけ方を知る。 |
| 5 | | 下腿の包帯 | 【下腿の包帯】<br>下腿包帯の走行を覚え、巻くことができる。 |
| 6 | | 膝部の包帯 | 【膝関節離開亀甲帯】【膝関節集合亀甲帯】<br>膝関節亀甲帯の走行を覚え、巻くことができる。 |
| 7 | | 復習 | 今までの包帯法を振り返り巻くことができる。 |
| 8 | | 冠名包帯１ | 【ヴェルポー包帯】<br>ヴェルポー包帯の走行を覚え、巻くことができる。 |
| 9 | | 冠名包帯２ | 【ジュール包帯】<br>ジュール包帯の走行を覚え、巻くことができる。 |
| 10 | | 冠名包帯３ | 【デゾー包帯（簡易ver.）】<br>デゾー包帯（簡易ver.）の走行を覚え、巻くことができる。 |
| 11 | | 鎖骨骨折の固定 | 【セイヤー絆創膏固定】<br>セイヤー絆創膏固定法の走行を覚え、固定の役割を知る。 |
| 12 | | 肋骨骨折固定１ | 【さらし厚紙副子固定法】<br>肋骨骨折の固定法を知り、走行を覚える。 |
| 13 | | 筆記試験 | 【筆記試験】<br>3年次に向け包帯固定の必修内容を覚える。 |
| 14 | | 総復習 | 【実技試験に向けての総復習】<br>実技試験に合格できるように試験を想定した練習をする。 |
| 15 | | 肋骨骨折固定２ | 【屋根瓦状固定】<br>肋骨骨折の固定法を知り、走行を覚える。 |

| 科目名【英】 | 柔道整復実技１<br>Judo Therapy Practical Training 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 1.2 |

| 担当教員 | 堀口 晃一・本田 珠美 | 実務者経験 | 整骨院勤務　平成8年3月～平成17年7月(堀口)<br>2022年4月から付属接骨院にて勤務(本田) |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 実技マニュアルを使い軟部組織損傷を理解し各検査法を学ぶ。 |
|---|---|
| 到達目標 | 徒手検査法を理解し動作ができるようになる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 柔道整復学の検査法 |
|---|---|
| 使用教材 | 実技マニュアル・柔道整復学(理論編・実技編) |
| 留意点<br>備　考 | 実技のためKC・白Ｔシャツ・短パン |

| 成績評価 | 実技試験100% |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 導入 | 国家試験の問題を解き、実技の授業の必要性を理解する。 |
| 2 | | 体表解剖 | 身体各部のランドマーク・大結節・結節間溝・足背動脈・感覚検査を行うことができる。 |
| 3 | | 徒手検査１ | 腱板損傷・上腕に頭金損傷の疼痛誘発メカニズムを理解する |
| 4 | | 徒手検査２ | 腱板損傷検査法（ペインフルアーク、インピンジメント、ドロップアームテスト）を行うことができる。 |
| 5 | | 徒手検査３ | 上腕二頭筋検査法（ヤーガソン・スピードテスト・エルボーフレクションテスト）を行うことができる。 |
| 6 | | 徒手検査４ | 大腿四頭筋・ハムストリングス肉離れの疼痛誘発メカニズムを理解する |
| 7 | | 徒手検査５ | 大腿四頭筋検査法（背臥位、座位、腹臥位）を行うことができる。 |
| 8 | | 徒手検査６ | ハムストリングス（背臥位、腹臥位）を行うことができる。 |
| 9 | | 徒手検査７ | ハムストリングス（背臥位、腹臥位）を行うことができる。 |
| 10 | | 徒手検査８ | 側副靭帯・半月板・十字靭帯損傷の疼痛風発メカニズムを理解できる |
| 11 | | 徒手検査９ | 膝関節検査法２（前方引き出し、ラックマン、Ｎーテスト）を行うことができる。 |
| 12 | | 徒手検査１０ | 膝関節検査法３（マックマレーテスト、アプレー圧迫、ワトソンジョーンズ）を行うことができる。 |
| 13 | | 徒手検査１１ | 下腿三頭筋（誘発テスト、トンプソンテスト）を行うことができる。 |
| 14 | | 徒手検査１２ | 足関節（前方引き出し、内反ストレステスト）を行うことができる。 |
| 15 | | 徒手検査１３ | 前期振り返り・総復習 |

| 科目名【英】 | 柔道整復実技２<br>Judo Therapy Practical Training 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 金曜日 | 時　限 | 1.2 |

| 担当教員 | 岩田　早紀 | 実務者経験 | 2013年4月～2017年3月　病院に所属<br>外来の物理療法をおこなう |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 柔道整復理論を理解した上で脱臼整復を学習する。 |
| 到達目標 | 実習を通じて整復法をできるようになる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 柔道整復理論を復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。 |
| 使用教材 | 実技マニュアル、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 実技の期末試験100% |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 肩関節前方脱臼 | コッヘル法で整復できるようになる。 |
| 2 | | 肩関節前方脱臼 | ヒポクラテス法の違いを知り整復できるようになる。 |
| 3 | | 肩関節前方脱臼 | コッヘル法、ヒポクラテス法の違いを知り整復できるようになる。 |
| 4 | | 肘関節後方脱臼 | 肘関節後方脱臼を整復できるようになる。 |
| 5 | | 肘内障 | 肘内障を整復できるようになる。 |
| 6 | | 肘関節後方脱臼<br>肘内障 | 肘関節後方脱臼と肘内障を整復できるようになる。 |
| 7 | | 顎関節前方脱臼 | 口外法で整復できるようになる。 |
| 8 | | 顎関節前方脱臼 | 口外法と口内法の違いを知り整復できるようになる。 |
| 9 | | 肩鎖関節上方脱臼 | 肩鎖関節上方脱臼が整復できるようになる。 |
| 10 | | 肩関節前方脱臼 | コッヘル法・ヒポクラテス法それぞれで整復できるようになる。 |
| 11 | | 肘関節後方脱臼<br>肘内障 | 肘関節後方脱臼を整復できるようになる。 |
| 12 | | 顎関節前方脱臼 | 口内法・口外法で整復できるようになる。 |
| 13 | | 肩鎖関節上方脱臼 | 肩鎖関節上方脱臼の整復ができるようになる。 |
| 14 | | 総復習 | 全ての整復法、固定法ができるようになる。 |
| 15 | | 試験の振り返り | 全ての項目の振り返りを行い、整復法、固定法をできるようになる。 |

| 科目名【英】 | 臨床実習２ Clinical Training 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 45 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 火曜日 | 時　限 | 3・4 |

| 担当教員 | 姫　将司　／　岩本　暁美 | 実務者経験 | （姫）2010-2012整形外科で勤務、2012－2014接骨院で勤務<br>（岩本）2007-2010接骨院で勤務 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 医療者が臨床で必要なマナーや倫理、診察法、症例レポートの作成方法を学ぶ。<br>医療面接や接遇の実技を行う。 |
|---|---|
| 到達目標 | 医療人としての身嗜みを整えや接遇としての患者対応をすることができる。<br>一般的な内科疾患、整形外科疾患を視診から判断することができる。<br>外来患者の症例記録から症例レポートを作成することができる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 実習内容について各自調べること。また、1年次の学習内容を復習しておくことが望ましい。 |
|---|---|
| 使用教材 | 教科書『柔道整復学　理論編』（東洋療法学校協会編）　配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 必要に応じて一般臨床医学の教科書を持参して受講することが望ましい。 |

| 成績評価 | 出席率　及び　臨床実習レポートにて評価する。 |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | ガイダンス | 臨床実習の意義、目的、評価を学ぶ。<br>適切な身だしなみを実践できる。 |
| 2 | | 医療倫理 | インフォームド・コンセント、守秘義務、医療過誤、衛生観念（ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌﾟﾘｺｰｼｮﾝ）を学ぶ。<br>インフォームドコンセントなど学んだことを説明できる。 |
| 3 | | 診察法１ | 医療面接、視診、聴診、打診、触診の意義を学ぶ。<br>医療面接で重要なこと、視診・聴診・触診での注意事項を答えることができる。 |
| 4 | | 診察法２ | 医療面接の意義、目的、方法を学ぶ。<br>情報収集、良好な医療従事者-患者関係を説明できる。 |
| 5 | | 診察法３ | 医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。<br>適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀を実践し、病歴情報を収集することができる。 |
| 6 | | 診察法４ | 視診・聴診・打診・触診の方法を学ぶ。<br>診察上の内科病変、整形外科的病変を答えることができる。 |
| 7 | | 診察法５ | 接骨院で使用する一般的な物理療法器機の扱い方を学ぶ。<br>一般的な物理療法器機の禁忌症や注意事項を答えることができる。 |
| 8 | | 診察法６ | 一般的なビジネスマナーを学ぶ。<br>服装と身だしなみのマナー、お辞儀、 会話、言葉遣いのマナーや笑顔とあいさつを行うことができる。 |
| 9 | | 診察法７ | 医療人としてのマナーを学ぶ。<br>医療人としての心構え、職場のマナー、患者対応の注意事項を答えることができる。 |
| 10 | | 外部臨床実習ガイダンス | 外部臨床実習の意義、目的、評価方法を学ぶ。<br>外部臨床実習の到達目標を説明できる。 |
| 11 | | ロールプレイング1 | 症例記録を作成する際の注意事項を学ぶ。<br>ロールプレイングから症例記録を作成することができる。 |
| 12 | | ロールプレイング2 | 症例レポートを作成する際の注意事項を学ぶ。<br>症例記録から症例レポートを作成することができる。 |
| 13 | | ロールプレイング3 | 一般的な整骨院業務を学ぶ。<br>挨拶・事前準備（ベッドメイク,掃除など）・事後片付け（掃除、翌施術日の準備など）・介助法（寝かせ方,座らせ方,起こし方,立たせ方など）を実施することができる。 |
| 14 | | 振り返り１ | 外部臨床実習から学んだことをまとめる。<br>医療従事者としての自覚や感想、反省を述べることができる。 |
| 15 | | 振り返り２ | 外部臨床実習から学んだことをまとめる。<br>症例レポートの発表を行うことができる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | | 検査法１ | 上肢の検査法を実施することができる。 |
| 17 | | 検査法２ | 上肢・下肢の検査法を実施することができる。 |
| 18 | | 検査法３ | 下肢の検査法を実施することができる。 |
| 19 | | ROM検査法 | 上肢・体幹のROMが計測できるようになる。 |
| 20 | | ROM検査法 | 下肢のROMが計測できるようになる。 |
| 21 | | ＭＭＴ１ | ＭＭＴについて理解することができる。 |
| 22 | | ＭＭＴ２ | ＭＭＴについて理解することができる。 |
| 23 | | ＭＭＴ３ | ＭＭＴについて理解することができる。 |

| 科目名【英】 | 柔道整復応用講座３<br>Course of Judo Therapy Advanced 3 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 1.2 |

| 担当教員 | 高橋秀郎 | 実務者経験 | 医療法人　淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定　手術助手　手術後のリハビリテーション担当　1993年9月～2013年4月 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 内科的疾患について学ぶ |
| 到達目標 | 臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。<br>また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。 |
| 使用教材 | 教科書「一般臨床医学」 |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 最終日に行う試験による評価を１００％とする。 |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 診察概論 | 診察の意義について理解、説明できるようになる |
| 2 | | 医療面接 | 医療面接について理解、説明できるようになる |
| 3 | | 視診 | 体格・体型　体位・姿勢について理解、説明できるようになる |
| 4 | | 視診 | 栄養状態　精神状態について理解、説明できるようになる |
| 5 | | 視診 | 異常運動　麻痺　麻痺の分類について理解、説明できるようになる |
| 6 | | 視診 | 運動失調～随意性歩行について理解、説明できるようになる |
| 7 | | 視診 | 皮膚の状態　色調の変化～毛髪、体毛の異常について理解、説明できるようになる |
| 8 | | 視診 | 頭部顔面の視診　大きさ、形～口腔、舌、咽頭の異常について理解、説明できるようになる |
| 9 | | 視診 | 頚部の視診～腹部の視診による異常所見について理解、説明できるようになる |
| 10 | | 視診 | 背部、腰部の視診～四肢の視診、（下垂手まで）について理解、説明できるようになる |
| 11 | | 視診 | 手の変形～下肢の変形について理解、説明できるようになる |
| 12 | | 打診 | 打診　打診の意義と方法～腹部の打診について理解、説明できるようになる |
| 13 | | 聴診 | 聴診の意義と方法～腹部の聴診について理解、説明できるようになる |
| 14 | | 聴診 | 触診の意義と方法～皮膚腫瘤、皮下腫瘤について理解、説明できるようになる |
| 15 | | 触診 | 筋肉の触診～リンパ節の触診について理解、説明できるようになる |

| 科目名【英】 | 柔道整復応用講座５<br>Couse of Judo Therapy Advanced 5 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 金曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 西浦　弘志 | 実務者経験 | 平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教4年間 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する |
| 到達目標 | 国家試験の正答率６０％を目指す |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 国家試験対策プリントの整理 |
| 使用教材 | 病理学概論　改定版3版（医歯薬出版）、国家試験対策プリントおよびノート |
| 留意点<br>備　考 | 授業中静粛にする |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 試験１００％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | I. 病理概論・病因・国家試験問題解説・II. 先天異常⇔後天性疾患－ | 授業内容（病理解剖と通常・特殊・免疫染色）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。 |
| 2 | | III. 循環障害 | 授業内容（血液やリンパ循環の阻害が原因の虚血・血栓・浮腫）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。 |
| 3 | | IV. 細胞障害 | 授業内容（細胞の退行性病変・萎縮・変性・壊死が原因の炎症系と免疫系への影響）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。 |
| 4 | | V. 増殖と修復 | 授業内容（組織の回復機構と回復しない増幅性と特殊性炎症）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。 |
| 5 | | VI. 炎症－１ | 授業内容（炎症関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。 |
| 6 | | VI. 炎症－２ | 授業内容（炎症細胞の修復の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。 |
| 7 | | VII. 免疫－１ | 授業内容（免疫関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。 |
| 8 | | VII. 免疫－２ | 授業内容（免疫細胞の炎症の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。 |
| 9 | | | |

| 科目名【英】 | 柔道整復応用講座７<br>Couse of Judo Therapy Advanced 7 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 金曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 西浦　弘志 | 実務者経験 | 平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教8年間 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する |
|---|---|
| 到達目標 | 国家試験の正答率６０％を目指す |

| 準備学習<br>時間外学習 | 国家試験対策プリントの整理 |
|---|---|
| 使用教材 | 衛生学・公衆衛生学　改定版６版（南江堂）、国家試験対策プリントおよびノート |
| 留意点<br>備　考 | 授業中静粛にする |

| 成績評価 | 試験１００％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 1.衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動 | 心身の健康の保全を研究する学問と理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。 |
| 2 | | 2.健康の概念 | WHOにおける健康を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。 |
| 3 | | 3.疾病予防と健康管理 | 疾病の自然史と予防を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。 |
| 4 | | 4.感染症の予防 | 感染と発病を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。 |
| 5 | | 5.消毒 | 消毒の意義を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。 |
| 6 | | 6.環境衛生 | 環境問題を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。 |
| 7 | | 7.試験対策 | 水の衛生と水質汚濁を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。 |
| 8 | | 8.試験の解説 | ライフサイクルと母子保健を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。 |
| 9 | | | |
| 10 | | | |

| 科目名【英】 | 解剖生理学２<br>Anatomy and Physiology 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 金曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 永瀬　佳孝 | 実務者経験 | 1989年4月～1991年3月小曽根病院歯科、1991年4月～1993年6月中川歯科医院にて歯科医師としての実務経験あり。 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 内臓の解剖学・生理学について学習する。 |
|---|---|
| 到達目標 | ①授業内容の各項目の知識を記憶し、図と文章を用いて説明することができる。<br>②授業の各項目について、臨床との関連を説明することができる。<br>③国家試験の問題を解く考える力を身につける。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 授業の最後に次回の講義範囲を提示するので、1年次の教科書を読んでくること。<br>授業の最後に記憶すべき事項を提示するので、覚えること。 |
|---|---|
| 使用教材 | 1・2年生で使用する解剖学、生理学、一般臨床の教科書 |
| 留意点<br>備　考 | すべて板書するので、それをノートに手書きで書き写し、授業終了時に授業ノートの提出により出席とする。 |

| 成績評価 | 筆記試験（60）%、授業ノート提出（40）%（欠席1回に付き13%減点）、合計100点。60点以上で合格。 |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 内臓の解剖と自律機能１ | 体液、血球の分化と疾患、免疫、アレルギー<br>免疫を中心とした各種細胞の機能と疾患との関連を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 2 | | 内臓の解剖と自律機能２ | 循環器系の概略と疾患、心臓の解剖と生理<br>心臓の構造・機能と疾患との関連を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 3 | | 内臓の解剖と自律機能３ | 血管系と血圧、循環の調節<br>血管系の構造が循環機能に関連することを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 4 | | 内臓の解剖と自律機能４ | 呼吸器系の解剖と疾患、呼吸の生理<br>呼吸器系と消化器系・循環器系が関連することを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 5 | | 内臓の解剖と自律機能５ | 呼吸の調節<br>呼吸調節が運動や他の内臓機能と関連することを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 6 | | 内臓の解剖と自律機能６ | 消化器系の解剖と機能<br>消化器系の構造の変化が機能の変化につながることを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 7 | | 内臓の解剖と自律機能７ | 消化・吸収と肝臓<br>消化と血管系の関連を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 8 | | 内臓の解剖と自律機能８ | 腎泌尿器系の解剖と疾患、ナトリウムイオンと水の吸収<br>尿路の構造と機能との関連を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 9 | | 内臓の解剖と自律機能９ | 電解質の調節、排尿と蓄尿<br>電解質の調節、繁用の調節と疾患との関連を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 10 | | 内臓の解剖と自律機能１０ | 代謝と体液のｐH、体温の調節の仕組み<br>中間代謝、エネルギー代謝を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 11 | | 内臓の解剖と自律機能１１ | 分泌調節によるホルモンの分類、下垂体のホルモン<br>分泌調節でホルモンを分類すると、共通することがあることを覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 12 | | 内臓の解剖と自律機能１２ | 下垂体ホルモンの続き<br>各内分泌器官のホルモン名、作用、分泌調節を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 13 | | 内臓の解剖と自律機能１３ | カルシウム代謝と骨の解剖生理<br>各内分泌器官のホルモン名、作用、分泌調節を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14 | | 内臓の解剖と自律機能１４ | 糖質代謝、電解質代謝<br>各内分泌器官のホルモン名、作用、分泌調節を覚える。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |
| 15 | | 内臓の解剖と自律機能１５ | 筋と解剖生理の関係<br>内臓機能との関連を説明することができる。<br>授業内容を暗記して、図と文章を用いて書くことができる。 |

| 科目名【英】 | 一般臨床医学<br>General Remarks of Clinical Medicine | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 1.2 |

| 担当教員 | 高橋秀郎 | 実務者経験 | 医療法人　淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定　手術助手　手術後のリハビリテーション担当　1993年9月～2013年4月 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 内科的疾患について学ぶ |
| 到達目標 | 臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。<br>また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。 |
| 使用教材 | 教科書「一般臨床医学」 |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 最終日に行う試験による評価を１００％とする。 |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 生命徴候 | 生命徴候　体温　血圧について理解、説明できるようになる |
| 2 | | 生命徴候 | 生命徴候　脈拍　呼吸　感覚検査の意義と方法について理解、説明できるようになる |
| 3 | | 感覚検査 | 表坐位感覚の検査～反射導入について理解、説明できるようになる |
| 4 | | 反射検査 | 表在反射～自律神経反射について理解、説明できるようになる |
| 5 | | 呼吸器疾患 | 呼吸器疾患概説　気管支喘息　COPDについて理解、説明できるようになる |
| 6 | | 呼吸器疾患 | 呼吸器疾患概説　肺癌～気胸について理解、説明できるようになる |
| 7 | | 循環器疾患 | 循環器疾患　総論　血圧について　うっ血性心不全について理解、説明できるようになる |
| 8 | | 循環器疾患 | 循環器疾患　虚血性心疾患について理解、説明できるようになる |
| 9 | | 循環器疾患 | 循環器疾患　弁膜症　末梢動脈疾患について理解、説明できるようになる |
| 10 | | 消化器疾患 | 消化器疾患　総論主要徴候　食道炎　食道潰瘍　食道癌について理解、説明できるようになる |
| 11 | | 消化器疾患 | 消化器疾患　急性胃炎　慢性胃炎～腸閉塞について理解、説明できるようになる |
| 12 | | 消化器疾患 | 消化器疾患　肝臓、胆嚢、膵臓疾患について理解、説明できるようになる |
| 13 | | 血液造血器疾患 | 血液、造血器疾患　貧血　白血病　血小板減少症について理解、説明できるようになる |
| 14 | | 腎・尿路疾患 | 腎、尿路疾患　総論　主要検査　急性糸球体腎炎について理解、説明できるようになる |
| 15 | | 腎・尿路疾患 | ネフローゼ症候群　膀胱炎　前立腺肥大症　尿路結石について理解、説明できるようになる |
| 16 | | | 内分泌疾患国試出題提示　関節リウマチ　SLE　ベーチェット病<br>皮膚筋炎 |

| 科目名【英】 | 病理学概論<br>Introduction to Pathology | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 月曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 森　誠司 | 実務者経験 | |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 病理学は「病の理（ことわり）」であり、どのようにして病気がおこるかを、形態学的手法を用いて研究する学問である。形態学のみならず、生理学、生化学などの総合的な知識を用いて病気のおこるメカニズムについて講義する。 |
| 到達目標 | 病気の成り立ちを十分に理解し、その知識を将来臨床の場で生かせるようにする。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 各々の講義項目は関連しており講義毎に復習をし、その復習による知識をふまえて次回の講義の予習を行う。 |
| 使用教材 | 医歯薬出版 病理学概論第3版 |
| 留意点<br>備　考 | なし |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末試験で評価 |

| 授業計画 【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 組織の適応① | 細胞の適応、肥大、過形成、<br>細胞・組織の病的増殖について説明できる。 |
| 2 | | 組織の適応② | 細胞の適応、化生、再生、創傷治癒<br>化生・再生の機序と種類を説明できる。創傷治癒の過程を説明できる。 |
| 3 | | 循環障害① | 組織・リンパ液の循環障害（浮腫）、充血とうっ血、出血<br>浮腫の原因を説明できる。充血とうっ血の相違を理解できる。出血の種類を説明できる。 |
| 4 | | 循環障害② | 血栓症、塞栓症、梗塞、循環ショック、高血圧症<br>血栓形成因子、血栓の種類、転帰を説明できる。塞栓の源と閉塞する血管を説明できる。 |
| 5 | | 炎症① | 炎症とは；炎症の転帰、炎症の種類。<br>炎症の転帰と炎症の種類を説明できる。 |
| 6 | | 炎症② | 急性炎症、慢性炎症<br>急性炎症と慢性炎症の病理学的（形態学的）特徴を説明できる。 |
| 7 | | 免疫異常① | 免疫の仕組み；自然免疫と獲得免疫（液性免疫、細胞性免疫）、<br>免疫の仕組みが理解できる。 |
| 8 | | 免疫異常② | 免疫系細胞、抗体、メディエータ<br>免疫に関わる細胞、分子、メディエータを説明できる。 |
| 9 | | 腫瘍① | 腫瘍とは、腫瘍の分類、良性腫瘍と悪性腫瘍<br>腫瘍の定義と分類が説明できる。良性腫瘍と悪性腫瘍の相違が説明できる。 |
| 10 | | 腫瘍② | 良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴（分化度と退形成・増殖速・局所浸潤・転移度）<br>良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴を説明できる。 |
| 11 | | 先天異常① | 先天性性疾患とは、分類、原因<br>原因ごとに先天性疾患について説明できる |
| 12 | | 先天異常② | 遺伝性疾患、メンデルの法則に従う疾患<br>メンデルの法則に従う遺伝性疾患の遺伝形式を理解し説明できる。 |
| 13 | | 病因① | 疾患の内因と外因<br>病原性微生物の大別と関連疾患について説明できる。 |
| 14 | | 病因② | 疾患の内因と外因<br>疾患の原因となりうる環境因子について説明できる。 |
| 15 | | 試験解説・まとめ | 試験解説 |

| 科目名【英】 | 衛生学・公衆衛生学<br>Hygiene and Public Health | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 金曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 西浦　弘志 | 実務者経験 | 平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教8年間 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する。 |
|---|---|
| 到達目標 | 国家試験の正答率６０％を採ることができるようになる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 国家試験対策プリントの整理 |
|---|---|
| 使用教材 | 衛生学・公衆衛生学　改定版６版（南江堂）、国家試験対策プリントおよびノート |
| 留意点<br>備　考 | 授業中静粛にする |

| 成績評価 | 筆記試験１００％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 7. 生活環境・食品衛生活動 | 水の衛生と水質汚濁を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 2 | | 8. 母子保健 | ライフサイクルと母子保健を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 3 | | 9. 学校保健 | 健康生活能力の発達を図るために学校で行われる諸活動を学校保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 4 | | 10. 産業保健 | 働く人の病気を予防し、健康を保持増進するための学問と活動が産業保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 5 | | 11. 成人・高齢者保健 | 老年人口の増加と生活習慣予防対策を理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 6 | | 12. 精神保健 | 精神障害の予防が精神保健と理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 7 | | 13. 地域保険と国際保健 | 地域および国際を対象としたものが地域保険および国際保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 8 | | 14. 衛生行政と保健医療の制度 | 公衆衛生の定義の中でコミュニテ―の組織学的な努力を通じての部分を具体化したものと理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 9 | | 15. 医療の倫理と安全の確保 | 道徳的規範を特定の医療集団に適応させたものが倫理と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 10 | | 16. 疫学 | 人間集団における疾病の分布とその発生原因を研究する科学を疫学と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 11 | | 7. 生活環境・食品衛生活動、8. 母子保健 | 水の衛生と水質汚濁を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。ライフサイクルと母子保健を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 12 | | 9. 学校保健、10. 産業保健、11. 成人・高齢者保健 | 健康生活能力の発達を図るために学校で行われる諸活動を学校保健と理解する。働く人の病気を予防し、健康を保持増進するための学問と活動が産業保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 13 | | 12. 精神保健、13. 地域保険と国際保健 | 精神障害の予防が精神保健と理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。地域および国際を対象としたものが地域保険および国際保健と理解する。正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 14 | | 14. 衛生行政と保健医療の制度、15. 医療の倫理と安全の確保 | 公衆衛生の定義の中でコミュニテ―の組織学的な努力を通じての部分を具体化したものと理解する。道徳的規範を特定の医療集団に適応させたものが倫理と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０％を採ることができるようになる。 |
| 15 | | 試験の振り返り | 試験対策問題の解答と解説。正答率６０％を採ることができるようになる。 |

| 科目名【英】 | 基礎鑑別学<br>Difference Diagnosis Basic | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 高橋秀郎 | 実務者経験 | 医療法人　淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定　手術助手　手術後のリハビリテーション担当　1993年9月～2013年4月 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 柔道整復師がチーム医療の一員として活躍するために必要な事は、他の職種とスムーズな患者情報の共有と柔道整復師の対応できる疾患の速やかな病態把握である。基礎鑑別学ではこれらの課題を遂行するための基礎知識を学ぶ。特に重篤な後遺症をを招くような注意すべき疾患の兆候にに重点を置いて解説する |
| 到達目標 | 患者の兆候から今後起こりえる病態を考察できるようになる<br>医療機関との連携が必要であると判断した際に、スムーズな患者情報の提供ができるようになる |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 人体の構造である解剖学　柔道整復術のと関連の深い整形外科学の知識を整理しておくこと |
| 使用教材 | 全国柔道整復学校協会監修　「医療の中の柔道整復」　有沢　修　著 |
| 留意点<br>備　考 | 教科書を熟読すること。<br>板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 定期試験100% |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 鑑別学1 | 損傷に類似した症状を示す疾患<br>身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る |
| 2 | | 鑑別学2 | 損傷に類似した症状を示す疾患<br>身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る |
| 3 | | 鑑別学3 | 損傷に類似した症状を示す疾患<br>身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る |
| 4 | | 鑑別学4 | 血流障害を伴う損傷<br>血流障害の兆候を理解し、緊急時の対応が出来るようになる |
| 5 | | 鑑別学5 | 末梢神経障害を伴う損傷<br>神経障害の発生機序を理解し、神経障害特有の病態から損傷されている神経の判断が出来る |
| 6 | | 鑑別学6 | 脱臼骨折<br>脱臼骨折の状態とその予後について理解する。後遺症の残らない対応の判断が出来る |
| 7 | | 鑑別学7 | 外出血を伴う損傷<br>柔道整復術の禁忌症の可能性を念頭に置いた対応が出来るようになる |
| 8 | | 鑑別学8 | 病的骨折及び脱臼<br>骨折、脱臼の対応とともに契機となる先行病変について理解し説明できるようになる |
| 9 | | 鑑別学9 | 意識障害を伴う損傷<br>意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる |
| 10 | | 鑑別学10 | 意識障害を伴う損傷<br>意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる |
| 11 | | 鑑別学11 | 脊髄症状のある損傷<br>脊髄損傷の症状を重篤化しない対応方法と脊髄損傷を引き起こす外傷について説明できる |
| 12 | | 鑑別学12 | 呼吸運動障害を伴う損傷<br>呼吸運動障害を呈する患者の対応と医療機関との連携をスムーズに行うことが出来る |
| 13 | | 鑑別学13 | 内蔵損傷の合併が疑われる損傷<br>内蔵損傷の兆候と対応方法を理解しその概要を説明できるようになる |
| 14 | | 鑑別学14 | 高エネルギー外傷<br>身体に高エネルギーの外力が加わった際の反応と組織損傷について説明できるようになる |
| 15 | | 鑑別学15 | 全体のまとめと総復習 |

| 科目名【英】 | 柔道３ Judo 3 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 中村　義毅 | 実務者経験 | 1997年5月整骨院を開業し現在に至る。<br>同整骨院にて柔道整復術を行う。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 柔道の技術と礼儀作法を学び、形（手技・腰技）や礼法を習得する。 |
| 到達目標 | 形や礼法を習得し、行うことができるようになる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 1年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく |
| 使用教材 | 柔道衣 |
| 留意点<br>備　考 | 準備運動としてストレッチや受身をとり外傷を予防する。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 15回目後に進級実技試験を実施し、柔道実技試験にて評価する。 |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 受身 | 横・前回り受身を行うことができる。 |
| 2 | | 約束乱取１ | 大外刈や体落の技の基本を学び行うことができる。 |
| 3 | | 約束乱取２ | 打込、投込の説明を行う。<br>背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。 |
| 4 | | 約束乱取３ | 打込、投込の説明を行う。<br>背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。 |
| 5 | | 形（手技）１ | 講道館の形について学ぶ<br>浮落の形（右投）を学び行うことができる。 |
| 6 | | 形（手技）２ | 講道館の形について学ぶ<br>浮落の形（左投）を学び行うことができる。 |
| 7 | | 形（手技）３ | 浮落の形を左投、右投を行うことができる。 |
| 8 | | 形（手技）４ | 講道館の形について学ぶ<br>右背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。 |
| 9 | | 形（手技）５ | 講道館の形について学ぶ<br>右背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。 |
| 10 | | 形（手技）６ | 講道館の形について学ぶ<br>左背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。 |
| 11 | | 形（手技）７ | 講道館の形について学ぶ<br>左背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。 |
| 12 | | 形（手技）８ | 講道館の形について学ぶ<br>肩車の注意点を学び、指示通りに行うことができる。 |
| 13 | | 形（腰技） | 講道館の形について学ぶ<br>浮腰の注意点を学び、指示通りに行うことができる。 |
| 14 | | 復習 | 礼法、形、約束乱取の練習<br>進級実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。 |
| 15 | | 復習 | 礼法、形、約束乱取の練習<br>進級実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。 |

| 科目名【英】 | 柔整コンディショニング実習２<br>Judo Therapy Conditioning Skill Practice 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 月曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 山田　靖典　／　岩本　暁美 | 実務者経験 | （山田）2001年～2008年まで整形外科勤務<br>（岩本）2007年5月～2010年6月　接骨院に所属し施術をおこなう |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | ストレッチングを通じて患者接遇を学ぶ（話し方・接触の仕方・気遣い・心遣い）<br>また筋肉を知ることで勉強の楽しさを学ぶ |
|---|---|
| 到達目標 | 特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナー資格取得 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 資格取得にむけた自主練習 |
|---|---|
| 使用教材 | 特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナーテキスト |
| 留意点<br>備　考 | 出席率１００%により受講資格が発生する |

| 成績評価 | 座学２０問（４択問題）６０%以上の正答率。実技３題の評価 |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | ストレッチングについて | ガイダンス。Ｐ２～１０　ストレッチングについて学ぶ。 |
| 2 | | ストレッチング下肢 | 大腿部前面後面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。 |
| 3 | | ストレッチング下肢 | 大腿内転筋群・股関節前面・後面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。 |
| 4 | | ストレッチング下肢・体幹 | 股関節後面・胸部のストレッチングを理解し、実施できるようになる。 |
| 5 | | ストレッチング体幹・バリエーション | 背部・上腕前面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。 |
| 6 | | 上肢の触診１ | 上肢筋の復習を行い、骨（肩甲骨・鎖骨）の触診を行う。 |
| 7 | | 上肢の触診２ | 筋（回旋筋腱板）、骨（上腕骨・橈骨・尺骨）の触診を行う。 |
| 8 | | 上肢の触診３ | 筋（三角筋、大胸筋、大円筋、僧帽筋、広背筋）の触診を行う。 |
| 9 | | 上肢の触診４ | 筋（菱形筋、肩甲挙筋、前鋸筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋）の触診を行う。 |
| 10 | | 上肢の触診５ | 筋（腕橈骨筋、円回内筋、長・短橈側手根伸筋）の触診を行う。 |
| 11 | | 下肢の触診１ | 下肢筋の復習を行い、骨（上前腸骨棘、坐骨結節、大転子、大腿骨頭）の触診を行う。 |
| 12 | | 下肢の触診２ | 筋（、大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、長内転筋、薄筋）の触診を行う。 |
| 13 | | 下肢の触診３ | 骨（膝蓋骨、大腿骨内・外側顆、脛骨内・外側顆、脛骨粗面、腓骨頭）の触診を行う。 |
| 14 | | 下肢の触診４ | 筋（縫工筋、大腿四頭筋、ハムストリング、前脛骨筋）の触診を行う。 |
| 15 | | 下肢の触診５ | 筋（腓腹筋、後脛骨筋、長・短腓骨筋）の触診を行う。 |

| 科目名【英】 | 外傷予防理論実習１<br>Injury Prevention Conditioning Practices 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 1.2 |

| 担当教員 | 田中　精一 | 実務者経験 | 2013年3月より通所介護施設開設。高齢者の転倒による外傷予防を含めた日常生活機能の維持・向上への機能訓練指導を行う。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっています。特に転倒を含めた外傷の予防、日常生活能力の維持・向上にむけた介護予防等は機能訓練指導員の大きな責務です。柔道整復師はその一員として位置づけられています。今後益々その担い手として介護分野への参画が期待されています。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事。また、医療分野への就職あるいは独自での開業だけに留まらず、介護分野への参入で将来の生計の幅の広がりを感じていただく事を目的とします。 |
| 到達目標 | 機能訓練指導員として介護保険制度の知識と技術を習得。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 授業計画を確認し、配布資料・講義内容をもとに予習・復習を行ってください。聞き逃しや疑問点がありましたら質問に来てください。 |
| 使用教材 | 教科書『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 配布したプリントは整理し、授業の度に持参して受講するのが望ましい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末筆記試験100% |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 柔整師と介護保険 | 介護保険サービスにおける柔整師の必要性の理解。 |
| 2 | | 柔整師と介護保険 | 介護保険サービスにおける柔整師の職務の理解。 |
| 3 | | 発達と老化の理解Ⅰ | サルコペニアとフレイルの違い。 |
| 4 | | 介護保険制度<br>認定調査 | 介護保険制度の理解<br>認定調査内容の理解 |
| 5 | | 介護保険制度<br>二人組　認定調査 | 介護保険制度の理解<br>認定調査内容の理解と調査体験。 |
| 6 | | 介護区分とサービス | 各種介護サービスの理解 |
| 7 | | 介護の過程Ⅰ<br>情報分析 | 介護支援のための情報分析（基本情報、アセスメント、課題の抽出） |
| 8 | | 介護の過程Ⅱ<br>居宅介護計画(原案)作成 | 介護支援のための居宅介護計画の作成能力習得。 |
| 9 | | ADLの評価法FIM　高齢者の身体機能 | ADLの評価（ランクによる支援の考え方）<br>歩行とスクワット動作等の確認と指導ポイント |
| 10 | | 機能訓練指導<br>機能訓練計画作成 | 機能訓練指導方法の理解。<br>個別機能訓練計画作成力 |
| 11 | | 認知症の理解 | 認知症患者の理解 |
| 12 | | 高齢者介護とＩＣＦ | 国際障害分類と国際生活機能分類（世界共通の分類）の理解 |
| 13 | | ロコモティブシンドローム | ロコモテスト方法と評価方法の習得 |
| 14 | | 高齢者救急・高齢者疾患 | 介護施設における救急と高齢者疾患の理解・我が国と欧米の死生観の違い |
| 15 | | 試験解答と解説<br>柔整師と機能訓練指導員まとめ | 筆記試験解答と解説<br>柔道整復師としての職業選択の幅 |

| 科目名【英】 | 柔道整復実技３<br>Judo Therapy Practical Training 3 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 月・水曜日 | 時　限 | 月3.4 水1.2 |

| 担当教員 | 岩田　早紀 | 実務者経験 | 2013年4月～2017年3月　病院に所属<br>外来の物理療法をおこなう |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 柔道整復理論を理解した上で骨折整復を学習する。 |
| 到達目標 | 実習を通じて骨折整復法と固定法をできるようになる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 柔道整復理論を復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。 |
| 使用教材 | 実技マニュアル、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 実技の期末試験100% |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 肩鎖関節上方脱臼 | 肩鎖関節上方脱臼の固定ができるようになる。 |
| 2 | | 鎖骨骨折 | 鎖骨骨折の整復ができるようになる。 |
| 3 | | 上腕骨外科頸骨折 | 上腕骨外科頸骨折を整復できるようになる。 |
| 4 | | 上腕骨外科頸骨折 | 上腕骨外科頸骨折を整復できるようになる。 |
| 5 | | 上腕骨顆上骨折 | 上腕骨顆上骨折を整復できるようになる。 |
| 6 | | 上腕骨顆上骨折 | 上腕骨顆上骨折を整復できるようになる。 |
| 7 | | コーレス骨折 | 牽引直圧整復法ができるようになる。 |
| 8 | | コーレス骨折 | 屈曲整復法を整復できるようになる。 |
| 9 | | 肩鎖関節上方脱臼 | 肩鎖関節上方脱臼の固定をできるようになる。 |
| 10 | | 鎖骨骨折 | 鎖骨骨折の整復ができるようになる。 |
| 11 | | 上腕骨外科頸骨折 | 上腕骨外科頸骨折の整復ができるようになる。 |
| 12 | | 上腕骨顆上骨折 | 上腕骨顆上骨折の整復ができるようになる。 |
| 13 | | コーレス骨折 | 牽引直圧整復法、屈曲整復法ができるようになる。 |
| 14 | | 総復習 | 全ての整復法、固定法ができるようになる。 |
| 15 | | 試験の振り返り | 全ての項目の振り返りを行い、整復法、固定法をできるようになる。 |

| 科目名【英】 | 柔道整復実技４<br>Judo Therapy Practical Training 4 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 正木　大吾 | 実務者経験 | 平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 前腕骨遠位端部、手根骨、中手骨、指骨折と手根骨、手指の脱臼の各論を学ぶ。また顎、肩、肘、肩鎖関節脱臼の整復実技、functional braceによる上腕骨骨幹部骨折の応用固定法を学びます。 |
|---|---|
| 到達目標 | ２年生の進級実技試験に合格し各骨折、脱臼の国家試験問題が解けるようになる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学（骨・筋）参照 |
|---|---|
| 使用教材 | 柔道整復理論　改訂第7版 |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 100%　定期試験評価 |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 前腕骨遠位端部骨折 | 橈骨遠位端部骨折の分類、コーレス骨折の発生機序、骨折線、骨片転位説明できる。 |
| 2 | | 前腕骨遠位端部骨折 | コーレス骨折の症状、変形、定型的転位、合併症などが説明できる。 |
| 3 | | 前腕骨遠位端部骨折 | コーレス固定法、続発症、後遺症などが説明できる。 |
| 4 | | 前腕骨遠位端部骨折 | スミス骨折の発生機序、骨片転位、症状、固定法、後療法の説明ができる。 |
| 5 | | 前腕骨遠位端部骨折 | バートン骨折、ショーファー骨折、橈骨遠位端骨端線離開の発生機序、骨片転位、症状、合併症の説明ができる。 |
| 6 | | 手・指部の損傷 | 舟状骨骨折の特徴、発生機序、分類、症状、合併症、整復固定法、難治の理由、予後を理解する。 |
| 7 | | 手・指部の損傷 | 三角骨、有鉤骨、豆状骨、月状骨、有頭骨、大菱形骨骨折、手関節の脱臼、遠位橈尺関節脱臼を理解できる。 |
| 8 | | 手・指部の損傷 | 月状骨骨折、月状骨周囲脱臼、ＣＭ関節、母指ＭＰ関節脱臼、母指以外のＭＰ関節脱臼 |
| 9 | | 手・指部の損傷 | 母指以外のＭＰ関節脱臼、中手骨骨折、ボクサー骨折の骨片転位、整復法、固定法を理解できる。 |
| 10 | | 手・指部の損傷 | 中手骨骨幹部骨折(横骨折、斜骨折、螺旋状骨折）ベネット骨折の発生機序、症状、注意事項を理解する。ローランド骨折を理解できる。 |
| 11 | | 手・指部の損傷 | ＣＭ関節の脱臼骨折、指骨骨折の分類、基節骨骨折の骨片転位、整復固定法が理解できる。 |
| 12 | | 手・指部の損傷 | 中節骨骨折（顆部、骨幹部、掌側板付着部裂離骨折）の骨片転位、整復固定法が理解できる。末節骨骨折の分類、骨片転位、整復固定法が理解できる。 |
| 13 | | 上腕骨骨幹部骨折の応用固定法 | キャスト材を用いたサルミエントの機能的装具固定が出来る。 |
| 14 | | 上腕骨骨幹部骨折の応用固定法 | キャスト材を用いたサルミエントの機能的装具固定が出来る。 |
| 15 | | 後期試験解答 | 後期試験問題の解答と解説と２年生進級実技試験の脱臼整復法の復習 |

| 科目名【英】 | 柔道整復実技５<br>Judo Therapy Practical Training 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 月曜日 | 時　限 | 3・4 |

| 担当教員 | 堀口　晃一 | 実務者経験 | 整骨院勤務　平成8年3月～平成17年7月 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 軟部組織損傷の疼痛誘発メカニズムを理解できる。 |
| 到達目標 | 上肢・下肢軟部組織損傷を理解し説明できるようになる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。 |
| 使用教材 | 教科書『柔道整復学　理論編』改訂第7版（南江堂）　配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学実技編の教科書を持参して受講することが望ましい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 学期末試験を実施し評価する。 |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 軟部組織損傷疼痛<br>誘発メカニズム | 肩関節局所解剖　腱板損傷　上腕二頭筋損傷 |
| 2 | | 軟部組織損傷疼痛<br>誘発メカニズム | 上肢軟部組織損傷疼痛誘発メカニズムの理解　上肢循環障害感覚検査 |
| 3 | | 軟部組織損傷疼痛<br>誘発メカニズム | 大腿部局所解剖　大腿四頭筋損傷・ハムストリングス損傷 |
| 4 | | 軟部組織損傷疼痛<br>誘発メカニズム | 大腿部軟部組織損傷メカニズムの理解　下肢循環障害 |
| 5 | | 軟部組織損傷疼痛<br>誘発メカニズム | 膝関節部局所解剖　内側側副靭帯・前十字靭帯損傷 |
| 6 | | 軟部組織損傷疼痛<br>誘発メカニズム | 半月板損傷・膝蓋跳動・下肢循環感覚検査 |
| 7 | | 軟部組織損傷疼痛<br>誘発メカニズム | 膝関節軟部組織損傷疼痛誘発メカニズムの理解 |
| 8 | | 軟部組織損傷疼痛<br>誘発メカニズム | 足関節の局所解剖　足循環感覚検査 |
| 9 | | 軟部組織損傷疼痛<br>誘発メカニズム | 足関節の疼痛誘発メカニズムの理解 |
| 10 | | 軟部組織損傷疼痛<br>誘発メカニズム | 胸郭出口症候群・腰椎椎間板ヘルニアの鑑別理解 |
| 11 | | 股関節部軟損１ | 鼠径部症候群、股関節唇損傷、ばね股を理解する<br>概説、発生機序、症状、固定法について説明できる |
| 12 | | 股関節部軟損２ | 梨状筋症候群、股関節外転位拘縮、股関節屈曲位拘縮を理解する<br>概説、発生機序、症状、固定法について説明できる |
| 13 | | 大腿部軟損１ | 大腿部打撲、大腿四頭筋肉離れを理解する<br>概説、発生機序、症状、固定法について説明できる |
| 14 | | 大腿部軟損２ | ハムストリングス、大腿周径を理解する<br>概説、発生機序、症状、固定法について説明できる |
| 15 | | 試験解説 | 定期試験の解答・解説を行う。 |

| 科目名【英】 | 柔道整復実技６<br>Judo Therapy Practical Training 6 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 火曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 上田　益嗣 | 実務者経験 | 1995年7月～2024年3月　接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 下肢の骨折や脱臼についての発生機転・症状を覚えやすい方法で学ぶ。基本的な柔道整復理論を理解する事によって、１年次に履修した基礎医学（解剖学・生理学）を通して観察・判断し、適切な処置が出来るような思考法を培い、基本的な処置原則を身につけることを学ぶ。また、３年次に必要な基礎的な知識を学習する。 |
| 到達目標 | 柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科学との関連を復習する。 |
| 使用教材 | 教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、教科書『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 授業に参加されない方、授業の妨害をされる方は欠課とすることがあります。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 原則、単元毎に小テストを実施。期末試験97%・小テスト3%で評価する。 |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 股関節脱臼２ | 小テスト。前回の復習。股関節脱臼【後方脱臼の整復障害・整復法・前方脱臼・中心性脱臼】　股関節脱臼について説明ができる |
| 2 | | 膝関節脱臼1 | 小テスト。前回の復習。膝関節脱臼【膝関節部の解剖・発生機序・分類・症状・合併症・　治療】。膝関節脱臼の分類の説明ができる |
| 3 | | 足部の脱臼１ | 小テスト。前回の復習。足部の脱臼【足部の解剖・距腿関節脱臼・横足根関節損傷・足根中足関節】距腿関節脱臼・横足根関節損傷・足根中足関節について説明ができる |
| 4 | | 足部の脱臼２ | 小テスト・前回の復習・足部の脱臼【中足趾節関節、趾節間関節の脱臼・発生機序・分類など】中足趾節関節脱臼・趾節関節脱臼を説明することができる。 |
| 5 | | 膝関節部<br>軟部組織損傷１ | 前回の復習・小テスト・半月板損傷・側副靱帯損傷【発生機序・症状・徒手検査・治療法　など】半月板損傷・側副靱帯損傷を説明することができる。 |
| 6 | | 膝関節部<br>軟部組織損傷２ | 前回の復習・小テスト・十字靱帯損傷・発育期の膝関節障害【発生機序・症状・徒手検査・　治療法など】。十字靱帯損傷・膝の変形・大腿四頭筋拘縮症について説明することができる。 |
| 7 | | 膝関節部<br>軟部組織損傷３ | 前回の復習・小テスト・発育期の膝関節障害【オスグッド・シュラッター病・ジャンパー膝・　分裂膝蓋骨など】。発育期の膝関節障害について説明することができる。 |
| 8 | | 膝関節部<br>軟部組織損傷４ | 前回の復習・小テスト・腸脛靱帯炎・鵞足炎・膝蓋大腿関節障害【発生機序・症状・徒手検査・治療法など】。腸脛靱帯炎・鵞足炎・膝蓋大腿関節障害について説明することができる。 |
| 9 | | 膝関節部<br>軟部組織損傷５ | 前回の復習・小テスト・膝周囲の滑液包関節包の障害・神経障害【発生機序・症状・治療法　など】。膝周囲の滑液包関節包の障害・神経障害について説明することができる。 |
| 10 | | 下腿部<br>軟部組織損傷１ | 前回の復習・小テスト・アキレス腱炎・アキレス腱周囲炎・アキレス腱断裂・下腿の肉離れ・　過労性脛部痛【発生機序・症状・治療法など】。下腿の損傷について説明することができる。 |
| 11 | | 足関節捻挫の類症鑑別１ | 前回の復習・小テスト・足関節捻挫・距骨滑車の骨軟骨損傷、足根洞症候群【足部の解剖・　発生機序、症状、治療法など】。足関節捻挫や類症鑑別について説明ができる |
| 12 | | 足関節捻挫の類症鑑別２ | 前回の復習・小テスト・腓骨筋腱脱臼、衝突性外骨種、三角骨障害【発生機転・症状・治療法　など】足部の軟部組織損傷について説明することができる。 |
| 13 | | 中足部から後足部の有痛性疾患２ | 前回の復習・小テスト・Sever病、アキレス腱滑液包炎、有痛性外脛骨、踵骨棘、足底腱膜炎、第1Kohler病、足根管症候群について説明できる。 |
| 14 | | 前足部の有痛性疾患 | 前回の復習・小テスト・外反母趾、強剛拇趾、種子骨障害、フライバーグ病、モートン病・　扁平足について説明できる。 |
| 15 | | 試験解説 | 後期試験解説・前回の復習・補足 |

| 科目名【英】 | 臨床実習３ Clinical Training 3 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 45 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 夏期集中 | 曜　日 | 外部実習 | 時　限 | |

| 担当教員 | 岩本　暁美 | 実務者経験 | 2007年5月～2010年6月　接骨院に所属し施術をおこなう。 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 臨床体験、臨床見学を通して、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を修得する |
|---|---|
| 到達目標 | 1)　臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。<br>2)　実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。<br>3)　患者に対し、適切な態度で接する。 |

| 準備学習<br><br>時間外学習 | 1.施術所で患者に不快感を与えない身嗜みを整える。<br>2.施術者に相応しい挨拶（自己紹介）ができる。<br>3.施術所で患者に不快感を与えない態度、適切な言葉づかいができること。<br>4.医学的な清潔の意味が説明できること。<br>5.施術所の清潔保持の重要性について説明できること。<br>6.守秘義務を説明できること。 |
|---|---|
| 使用教材 | 配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 出席率　及び　臨床実習評価表にて評価する。 |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 基礎実習 | 1)　柔道整復師として相応しい服装、身嗜み、態度を身に付ける<br>2)　医療面接の実施<br>3)　ROM、MMTなどを計測、評価の実施<br>4)　神経学的検査、脈管検査、評価の実施<br>5)　治療器機の効果、禁忌の理解<br>6)　ベッドメイキング、衛生面への配慮<br><br>【見学実習】<br>1)　環境準備<br>2)　受付業務<br>3)　患者さんの誘導を実施 | | | | |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | |
| 9 | | 患者さんに対する対応 | 1)　患者に対して適切な対応ができる。<br>2)　患者の抱える問題点に共感できる。<br>3)　自己の問題点を抽出し、解決できる。 | | | | |
| 10 | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | |
| 13 | | 施術録作成・症例検討 | 1)　施術録の記載<br>2)　症例検討の実施 | | | | |
| 14 | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | |
| 16 | | | | | | | |
| 17 | | 保険請求 | 1)　手続きの意義<br>2)　記載方法の実施 | | | | |
| 18 | | | | | | | |
| 19 | | | | | | | |
| 20 | | | | | | | |
| 21 | | 実習期間 | 時間数 | 回数 | 総時間 | 期間 | |
| 22 | | | 8時間(全日) | 6回<br>(6回目は5時間) | 45時間 | 8月中の1週間 | |
| 23 | | | | | | | |

| 科目名【英】 | 課題研究<br>Project Studies | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 演習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 岩本　暁美　/　姫　将司 | 実務者経験 | （岩本）2007年5月～2010年6月　接骨院に所属<br>（姫）　2010-2012整形外科で勤務、2012－2014接骨院勤務 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 興味のあるテーマを探し、それに関する基礎的知識および先行研究を調べる。 |
|---|---|
| 到達目標 | 仮説を立て、論理的に説明することができる。<br>発表を行うことでプレゼンテーション力を身につけることができる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | |
|---|---|
| 使用教材 | |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | グループテーマ決め、中間発表、本発表の総合評価 |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーション | オリエンテーションを行い、課題研究の目的、到達目標を全員が理解できる。 |
| 2 | | 個人テーマの検討 | 全員で考え、目的・研究テーマを決定できる。 |
| 3 | | 個人テーマの検討 | 全員で考え、目的・研究テーマを決定できる。 |
| 4 | | グループテーマ決定 | 全員で考え、目的・研究テーマを決定できる。 |
| 5 | | 先行研究調査 | テーマに沿った先行研究を探し、論文を要約する。 |
| 6 | | 先行研究調査 | テーマに沿った先行研究を探し、論文を要約する。 |
| 7 | | 先行研究調査 | テーマに沿った先行研究を探し、論文を要約する。 |
| 8 | | 中間発表 | 教員の前でグループ発表 |
| 9 | | 先行研究調査<br>・スライド作成 | 仮説を正しく説明するための根拠を探す。<br>テーマに関する基礎的知識を調べる。 |
| 10 | | 先行研究調査<br>・スライド作成 | 仮説を正しく説明するための根拠を探す。<br>テーマに関する基礎的知識を調べる。 |
| 11 | | 先行研究調査<br>・スライド作成 | 仮説を正しく説明するための根拠を探す。<br>テーマに関する基礎的知識を調べる。 |
| 12 | | 先行研究調査<br>・スライド作成 | 仮説を正しく説明するための根拠を探す。<br>テーマに関する基礎的知識を調べる。 |
| 13 | | 先行研究調査<br>・スライド作成 | 仮説を正しく説明するための根拠を探す。<br>テーマに関する基礎的知識を調べる。 |
| 14 | | 先行研究調査<br>・スライド作成 | 仮説を正しく説明するための根拠を探す。<br>テーマに関する基礎的知識を調べる。 |
| 15 | | 本発表 | 教員、１年生の前で発表 |

| 科目名【英】 | 柔道整復応用講座１<br>Couse of Judo Therapy Advanced 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 1.2 |

| 担当教員 | 林 真太郎 | 実務者経験 | 2010年～2019年 理学療法士として病院勤務を経て訪問リハも従事<br>2019年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 運動に関する人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。<br>特に姿勢や歩行、運動発達なども含めた人体の運動の諸要素、各理論について学習する。 |
| 到達目標 | 空間の中での身体の運動ならびにその原理・理論を理解できる。<br>身体の運動に関与している骨、関節、靭帯、筋について説明できる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。 |
| 使用教材 | 教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末試験 100% |

| 授業計画 【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 運動学１ | 四肢と体幹の運動【体幹・脊柱・顔面・頭部１】<br>体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる |
| 2 | | 運動学２ | 四肢と体幹の運動【体幹・脊柱・顔面・頭部２】<br>体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。 |
| 3 | | 運動学３ | 姿勢<br>基本的な立位姿勢について理解し、ヒトの姿勢の観察を通じてこれを想起できる。 |
| 4 | | 運動学４ | 歩行１<br>歩行についての基本的な事項を理解できる。 |
| 5 | | 運動学５ | 歩行２<br>歩行についての基本的な事項を理解し、ヒトの歩行の観察を通じてこれを想起できる。 |
| 6 | | 運動学６ | 運動発達・運動学習<br>運動発達や運動学習の方法・過程について理解し、これを想起できる。 |
| 7 | | 運動学７ | 運動学総論<br>ヒトの運動にまつわる諸要素を理解し、ヒトの動きを運動学的用語を用いて説明できる。 |
| 8 | | 運動学８ | まとめ |
| 9 | | | |

| 科目名【英】 | 柔道整復応用講座２<br>Course of Judo Therapy Advanced 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 月曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 山本　貴啓 | 実務者経験 | 1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | リハビリテーション医学の対象となる主要な疾患ごとのリハビリテーションの内容を理解する。<br>柔道整復師としてリハビリテーション専門職と関わるときの共通言語の理解に繋げる。 |
| 到達目標 | 主要な疾患でのリハビリテーションを理解し説明することが出来る。<br>専門用語を理解し説明することが出来るようになる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。 |
| 使用教材 | 教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料 |
| 留意点<br>備　考 | 疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末テスト１００％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 運動器障害１ | 骨折・変形性関節症・骨粗鬆症<br>高齢者の骨折・骨粗鬆症について説明できるようになる |
| 2 | | 運動器障害２ | 上肢の運動器疾患<br>上肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる |
| 3 | | 運動器障害３ | 下肢の運動器疾患<br>下肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる |
| 4 | | 運動器障害４ | 体幹の運動器疾患<br>体幹の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる |
| 5 | | 内部障害１ | 呼吸機能障害・ＣＯＰＤ・在宅酸素療法<br>呼吸機能障害を説明できるようになる |
| 6 | | 内部障害２ | 心疾患リハビリテーション・運動処方<br>心臓機能障害を説明できるようになる |
| 7 | | スポーツ・障害者スポーツ | スポーツリハビリテーション・障害者スポーツ<br>スポーツリハビリテーション・障害者スポーツについて概説できるようになる |
| 8 | | 試験解説・まとめ | 後期試験解説<br>後期で学習した範囲が説明できるようになる |
| 9 | | | |
| 10 | | | |

| 科目名【英】 | 柔道整復応用講座４<br>Course of Judo Therapy Advanced 4 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 3.4 |

| 担当教員 | 高橋　秀郎、姫 将司 | 実務者経験 | 高橋）医療法人　淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定<br>手術助手　手術後のリハビリテーション担当　1993年9月～<br>2013年4月<br>姫）2010-2012整形外科で勤務、2012－2014接骨院勤務<br>2014－東洋医療専門学校専科教員　現在に至る |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 柔道整復師の業務に必要な整形外科疾患の知識を得る。<br>柔道整復業務に必要な情報のやり取りを整形外科医と行う為の基礎知識を学ぶ |
|---|---|
| 到達目標 | 国家試験整形外科分野の正答率80%を目指す<br>患者の状態から正しい病態把握ができるようになる<br>外傷だけでなく整形外科疾患全般の知識を身に着ける |

| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学の骨、筋の知識の復習 |
|---|---|
| 使用教材 | 柔道整復学校協会　整形外科学 |
| 留意点<br>備　考 | 教科書を熟読すること。<br>板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事 |

| 成績評価 | 定期試験　筆記１００% |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 骨・関節損傷総論 | 整形外科的治療法<br>骨・関節損傷総論　骨・関節損傷の概要を説明することが出来るようになる |
| 2 | | 骨折合併症・観血的治療法 | 骨・関節損傷総論<br>骨折合併症・観血的治療法　骨折合併症の諸注意と観血的治療の概要を説明することができる |
| 3 | | 骨・関節損傷総論 | 骨・関節損傷総論<br>小児骨折の特徴　開放骨折　疲労骨折の概要を説明することが出来るようになる |
| 4 | | スポーツ整形外科総論 | 関節の損傷<br>スポーツ整形外科総論　関節損傷の定義　スポーツ整形の領域について説明できるようになる |
| 5 | | リハビリテーション総論 | スポーツ整形外科総論<br>リハビリテーション総論　変形・拘縮のリハビリテーションの手順を説明できるようになる |
| 6 | | リハビリテーション総論 | リハビリテーション総論<br>術後リハビリテーションの手法、スポーツリハビリテーションを説明することが出来るようになる |
| 7 | | 復習 | 総復習　知識の整理 |
| 8 | | 疾患別各論１ | 感染性疾患、骨腫瘍、軟部腫瘍について説明することができる。 |
| 9 | | 疾患別各論２ | 非感染性骨疾患、全身の骨・軟部疾患について説明することができる。 |
| 10 | | 疾患別各論３ | 骨端症、四肢循環障害、神経・筋疾患について説明することができる。 |
| 11 | | 身体別各論１ | 頸部、胸部、腰部の損傷について説明することができる。 |
| 12 | | 身体別各論２ | 肩甲帯および上肢の疾患について説明することができる。 |
| 13 | | 身体別各論３ | 肩甲帯および上肢の疾患について説明することができる。 |
| 14 | | 身体別各論４ | 骨盤および下肢の疾患について説明することができる。 |
| 15 | | 身体別各論５ | 骨盤および下肢の疾患について説明することができる。 |

| 科目名【英】 | 柔道整復応用講座６<br>Course of Judo Therapy Advanced 6 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 2 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 1.2 |

| 担当教員 | 坂口　道倫 | 実務者経験 | 外科の臨床および研究を30年間おこなっている |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 前期に引き続き、外科学を学び柔道整復の臨床に応用できるように 基礎知識を身につける。 |
| 到達目標 | 前期範囲を含めて、外科的疾患の病態を自ら考えて説明できるようになる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 授業同様、自学習において自ら考える力を養う |
| 使用教材 | 外科学概論　改訂第４版　南江堂 |
| 留意点<br>備　考 | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 定期試験（９０%）＋中間・確認テスト（計１０%）で総合評価する。 |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 外科学総論１ | 損傷と創傷<br>損傷の分類を説明できる |
| 2 | | 外科学総論２ | 熱傷、炎症、腫瘍<br>熱傷の分類を説明できる |
| 3 | | 外科学総論３ | 消毒、麻酔、手術<br>消毒薬と特徴について説明できる |
| 4 | | 外科学総論４ | ショック、輸液、心肺蘇生<br>ショックの定義を説明できる |
| 5 | | 外科学総論５ | 移植、出血と止血<br>移植の用語を説明できる |
| 6 | | 外科学総論６ | 総論まとめ<br>総論の要点をまとめ、説明できる |
| 7 | | 中間テスト | 総論の確認<br>中間試験で及第点がとれる |
| 8 | | 外科学各論１ | 脳神経外科疾患<br>主な脳神経疾患の種類を挙げることができる |
| 9 | | 外科学各論２ | 甲状腺、胸壁・呼吸器疾患<br>胸部損傷での注意点を説明することができる |
| 10 | | 外科学各論３ | 心臓・脈管疾患<br>ASO,TAOの相違点を説明できる |
| 11 | | 外科学各論４ | 乳腺疾患、腹部疾患<br>腹部疾患の症状を説明できる |
| 12 | | 外科学各論５ | 腹部疾患<br>腹部疾患における注意点を説明できる |
| 13 | | 確認テスト | 各論まとめ<br>各論の要点をまとめ、説明できる |
| 14 | | 外科学まとめ | 外科学まとめ、受験の心構え<br>医療者としての心構えを示すことができる |
| 15 | | 学年末まとめ | 試験実習１<br>模擬試験で及第点がとることができる |